室城秀之・江戸英雄・正道寺康子・稲員直子共編

『うつほ物語の総合研究2　古注釈編Ⅰ』

佐藤信一

よきひとの手をだにふれよ玉琴のことゝのはぬしらべながらも

（『玉琴』巻一巻頭）

まず、本書の紹介がこれほど遅れたのは偏に評者の怠慢によるものであることをお詫びしておかなくてはならない。本当は昨年の号に掲載するべきであった。書評の機会が与えられたことに感謝している。

本書は、室城先生を中心とした『うつほ物語』研究を志す人たちによる、古註釈の翻刻を中心とした資料の紹介である。ただ、翻刻といっても、写本を活字に起こしただけではない工夫が、随所に凝らされている。紹介された資料は、細井貞雄『玉琴』、同『空物語二阿鈔』、清水浜臣『空穂物語考（尊経閣文庫本）』、同『宇津保物語考証（平瀬本）』、同『うつほ物語考証（大久保本）』、横山由清『宇津保物語考証　附別記』である。

『玉琴』は室城先生の、『空物語二阿鈔』は江戸氏の、『空穂物語考（尊経閣文庫本）』、『宇津保物語考証（平瀬本）』、『うつほ物語考証（大久保本）』は、正道寺氏の、『宇津保物語考証附別記』は稲員氏の担当である。それぞれに解題が施され、研究文献も挙げられている。

とりわけ至便なのは、巻別頁対照表である。例を挙げて示そう。「国譲・上」（『うつほ物語　全』六六九頁）「触穢のことありて」を取り上げる。まず『うつほ物語の総合研究1　本文編』を開いてみる。この『総合研究1』は前田家本の翻刻であるが、下段に『うつほ物語　全』との頁が示されている。それで見ると七三三頁の八行目に「そ〈ナシ〉くゑの事ありて」とある。それからは対照表によって各巻に当たってゆけばよい。語注を含む語には『本文編』のページ数が示されており、行数は丸数字で示されている。それによって、『空物語二阿抄』に「そくゑ明阿曰、触穢也。」とあり、『うつほ物語考証（大久保本）』に「「そくゑ」、触穢也。こゝは、子うみ給ふけがれに、こもり給ふほどの事也。」とあることが知られる。『うつほ物語』の研究の進展を阻んできた要因の一つに錯簡の問題がある。江戸時代の古注釈では錯簡のある本文を復元せずに注を施している。そのためそのままでは非常に扱いにくいのである。その上これら古注釈は、従来あまり顧みられず、活字化されているものは明治四十年刊行の国文注釈全書所収のものしかなかった。この『古注釈編Ⅰ』を得て、私たちはそれこそ『うつほ物語』の古注釈の世界を自由自在に飛翔することができるのである。

（平成十四年二月八日刊　A5判　五七一ページ　勉誠出版）